

授業科目名・形態	児童・家庭福祉論	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	中里 操	開講期	2年前期	単位数 2

【授業の主題】

近年、我が国では子どもが事件に巻き込まれるケースや、いじめによる自殺や不登校が増加している。児童相談所に寄せられる児童虐待の相談も増えている。すべての子ども達が、安心して過ごせる居場所が少ないのかも知れない。社会福祉の問題は、姿を変えて一番弱い部分に現れる。授業では、子どもと家庭・地域社会の現状と課題に対する支援制度を学ぶ。

【到達目標】

1. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際を理解する。
2. 児童・家庭福祉制度の発展過程をについて理解する。
3. 児童の権利について理解する。
4. 相談援助活動に必要な児童・家庭福祉制度や関連する他の法制度について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション、児童の定義と権利
- 第2回 現代社会と子どもの育ち、子育てのニーズ
- 第3回 子ども家庭福祉の原理と権利
- 第4回 児童・家庭福祉の発展過程（児童観と児童政策の変遷）
- 第5回 児童福祉法と児童扶養手当法、特別児童扶養手当等の支給に関する法律
- 第6回 子ども家庭に関わる母子保健法、母子及び寡婦福祉法
- 第7回 子ども家庭福祉にかかわる法制度（次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法、売春防止法等）
- 第8回 障害・難病の児童と家族への支援
- 第9回 児童の健全育成と児童館
- 第10回 保育制度とひとり親家庭の支援
- 第11回 非行児童・情緒障害児支援
- 第12回 児童虐待問題と対策
- 第13回 児童・家庭福祉制度における組織及び団体
- 第14回 児童・家庭福祉制度における専門職と多職種連携、ネットワーキング
- 第15回 児童相談所の役割と実際

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う

【授業準備】

前回の講義内容を復習する。講義予定内容を読み、専門用語など解らないこと、疑問点などを整理しておく。講義中に取り上げたテーマなどを自ら文献に当たるなどして確認する。児童福祉関連のニュースに関心を寄せ、自分なりの理解と説明ができる状態で主体的に学習の準備をする。

【主な関連する科目】

障害児・者の福祉、社会福祉概論、

【教科書等】

新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第7版 中央法規出版

【参考文献】

【成績評価方法】

授業への取り組み姿勢 10%、提出レポート 20%、期末試験の成績 70%の総合評価とする。

【学生へのメッセージ】

子どもたちの成長を支える社会システムの構築に向けた基盤となる科目です。自分の生活に重ね合わせながら、地域社会の中で起きている児童問題に関心を寄せてください。子どもに体現する事象の奥にある見えない福祉要因を探ってください。ビデオ教材によるレポートがあります。事象を受け止め考える力を育ててください。